

まちづくりの方針G

私たちは「未来を創る人を育み、だれもが学び、楽しみ続けられるまち」をめざします

ページ数

G1 新たな時代を生き抜く子どもを育みます.....	59
G2 だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります.....	61
G3 スポーツ・レクリエーション活動を推進します.....	63
G4 芸術文化あふれる暮らしを創出します.....	65

※白紙ページ

施策 G1 新たな時代を生き抜く子どもを育みます

◆2030年度にめざす姿（なにが どうなっている）

学校教育課

子どもが

長崎のまちを愛し、変化に対応しながら、新たな時代を自分らしく生き抜く力を身に付けています。

◆現状分析と取組みの方向性

うまくいっていること、強み、チャンス

- 各学校がICTの効果的な活用を進めたことにより、学習に取り組む意欲・態度が高まっている。
- 対話型授業の平和教育をすべての学校で実践したことにより、子どもたちが平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとする意識の高まりに繋げることができている。
- 子どもたちに対し、地元長崎で活躍している職業人による職業講話や、弁護士による法教育等を実施したことにより、様々な分野で活躍している方々の話を直接聞き、多くの児童生徒が、長崎の魅力を実感したり、身近な法律や社会制度に興味をもったりできている。
- 教師の適切な支援や声掛けが児童生徒の自己肯定感を高めている。
- 地域コミュニティ連絡協議会の設立が進むなど、地域での活動が広がりをみせており、学校や子どもたちと地域との連携がさらに取り組みやすい状況となっている。

うまくいっていないこと、弱み、脅威

- 全国学力学習状況調査において、小中学校ともに全国平均を下回る結果が続いている。
- 人口減少対策、特に、若い世代の県外流出を防ぐためにも、子どもたちが将来「住みたい・戻ってきたい」と思うような長崎市版キャリア教育の充実を図る必要性がさらに高まっている。
- 不登校児童生徒数が年々増加しており、不登校児童生徒が安心して教育を受けられる環境の整備や、多様な学びの場の確保の必要性が高まっている。
- 小中学生の地域行事への参加が、減少傾向となっている。
- スマートフォンの使用について、親子でのルールを決める取り組みを進めているが、家庭内での実行に結びついていない。
- 学校の小規模化が進んでおり、子どもたちが集団生活の中で活気に満ちた活動が出来る学校規模を確保する必要がある。
- 学校施設の老朽化が進んでおり、子どもたちの安全安心な教育環境を整える必要がある。
- 中学校部活動において、生徒数の減少等により、廃部や休部、大会に参加できないなど、十分な活動ができなくなっている。

取組みの方向性

①「確かな学力」の向上

- ・指導主事や学力向上アドバイザーの訪問指導による校内研修の充実、授業改善のための学校間連携や交流授業を推進し、学校教育の担い手である教職員の指導力の向上を図ります。

②健やかな心と体の育成

- ・長崎市版キャリア教育の推進、英語教育の強化や国際理解教育の充実を通して、国際性豊かで、長崎を愛する心をもち、まちを支える人材の育成を図ります。
- ・メタバース空間を活用した学びの場の提供や、校内別室支援員の配置、特別な教育課程を編成した「学びの多様化学校」の開設などを通して、不登校児童生徒の多様な学びの場を保障し、社会的自立に向けた力を育みます。

③家庭・学校・地域の連携による教育の充実

- ・学校運営協議会の導入校の拡大と地域と学校が連携協働した活動促進に努めます。
- ・家庭での教育の力を深め、親子の絆や地域とのつながりを育む家庭教育の取組みを推進し、子どもたちの健全育成を図ります。
- ・子どもたちの持続可能なスポーツ・文化芸術活動の環境を整備するため、部活動の地域移行（地域展開）を推進します。

④安全・安心に学べる教育環境の整備

- ・次代を担う子どもたちの教育効果をより高めるため、学校規模の適正化と適正配置を進めます。
- ・子どもたちが安全・安心に学べる教育環境を整えるため、長寿命化計画に沿って、各学校の改築や予防保全のための大規模改造などを実施し、老朽化対策を推進します。

◆成果指標

指標名	基準値	目標値
夢や目標をもっている小中学生の割合	75.5%	80.5%
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きだと思っている小中学生の割合	92.0%	95.0%

◆関連するSDG's



◆連携して進める主な施策

A3 国際交流を推進し、互いの文化を理解することで、国際性を豊かにします

B1 被爆の実相を伝え続けます

F4 こどもが夢や希望を持って健やかに成長できるまちづくりを進めます

◆関連する総合戦略

基2・(3) 教育環境の充実

◆施策イメージ画像



【あじさいEnglish
Speech Contest】



【生徒会リーダー交流会】

施策 G2

だれもが生涯を通じていきいきと学べる社会をつくります

生涯学習企画課

◆2030年度にめざす姿（なにが どうなっている）

市民が

自ら学ぶとともに、学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている。

◆現状分析と取組みの方向性

うまくいっていること、強み、チャンス

○公民館、科学館、図書館などの社会教育施設において、多様な講座や体験イベントなどを実施することで、市民のつながりづくりや課題解決のきっかけづくり、教養の向上、郷土愛の醸成など、学びの機会の充実が図られている。

○学生ボランティアシステムを活用し、多くの長崎地域の大学生がボランティア活動により実社会で役立つ経験やスキルを学んでいる。

○若者が自発的に実現したいアイデアを企画化した活動や、やりたいことがある若者、アイデアを持った若者たちによる交流が生まれている。

○公民館支援ボランティアや図書館ボランティアの活動は、活動者自身のスキルアップやモチベーション向上、そしてより良い施設運営につながっている。

うまくいっていないこと、弱み、脅威

○公民館では講座の参加者、公民館支援ボランティアともに関わる人が固定化している。

○科学館などの学習・体験施設ではイベント内容に偏りが見られるため、より幅広い層への働きかけや多様な学びの機会の提供が課題となっている。

○若者たちによる自発的な交流や活動が生まれているものの、まだ多くの若者にまでは広がっていない状況である。

取組みの方向性

①学びの場と機会の充実

- ・市民が楽しく学ぶことができ、参加者拡大につながるよう、課題やニーズに沿った学習機会の提供に努めます。
- ・新たな時代に対応したオンライン学習などの充実を図ります。
- ・体験施設における学習内容の充実、また、図書館における生涯にわたる読書習慣を育むための主催事業の充実を図ります。
- ・多様な経験や交流を通じた学生の学びの充実を図るために、地域でのボランティアを希望する学生を支援します。
- ・若者が自己実現できる場や機会を増やし周知することで、意欲やアイデアを持った若者がいつでも学び、チャレンジできる環境づくりに取り組みます。

②能力や経験が社会に活かされる仕組みづくり

- ・学習活動ボランティアへの関心を高めるための情報やボランティアの能力・経験を活かせる機会の提供に努めます。

◆成果指標

指 標 名	基 準 値	目 標 値
自発的に学びに取り組んでいる市民の割合	35.7%	39.5%
学びを通して仲間づくり、地域づくりを行っている市民の割合	35.3%	41.1%

◆関連するSDG s



◆連携して進める主な施策

F1 人権が尊重され、様々な分野で男女が参画するまちづくりを進めます

H1 多様な主体が情報共有しながら参画と協働によるまちづくりを進めます

◆関連する総合戦略

基3・(3) 地域資源を活かした魅力あるまちづくり

◆施策イメージ画像



【恐竜博物館展示】



【ながさき若者会議】



【講座を支援するボランティア】

施策 G3

スポーツ・レクリエーション活動を推進します

スポーツ振興課

◆2030年度にめざす姿（なにが どうなっている）

市民が

いつでも、どこでも、いつまでもスポーツ・レクリエーションに親しんでいる。

◆現状分析と取組みの方向性

うまくいっていること、強み、チャンス

○長崎市スポーツ協会等との連携が図られている。

○公共施設案内・予約システムの適切な運用により、施設予約等の利便性が向上している。

○長崎スタジアムシティの開業に伴い、市内にスタジアムとアリーナが整備され、長崎市をホームタウンとするV・ファーレン長崎及び長崎ヴェルカの応援機運が高まるとともに、地域の活性化につながっている。

うまくいっていないこと、弱み、脅威

○令和6年度の市民意識調査によると、成人の週1回以上スポーツを実施している市民の割合は43.6%（国の目標70%）で、日頃から運動やスポーツを実施している市民の割合は、依然として低い状況となっている。

取組みの方向性

①スポーツ・レクリエーションをする場と機会の充実

- ・市民が気軽にスポーツやレクリエーションに親しめるように、各競技団体、長崎市スポーツ協会と連携し、スポーツイベントを推進します。
- ・スポーツ少年団及びスポーツ推進委員の活動を推進し、スポーツやレクリエーションへの関心を高める取組みを進めます。
- ・多様化するスポーツニーズの把握に努め、必要かつ適切なスポーツ環境の整備を進めます。

②スポーツを見る機会の創出と競技者の支援

- ・長崎市をホームタウンとするプロスポーツチームに対する市民の応援機運の醸成を図ります。
- ・長崎県スポーツコミッショナ等と連携し、トップレベルのスポーツ大会や合宿の誘致を図ります。
- ・各競技団体と連携し、ジュニア層の競技力の向上に取り組みます。

◆成果指標

指標名	基準値	目標値
市営スポーツ施設の利用者数	2,244,445人	2,602,788人
運動・スポーツ実施率	43.6%	70.0%

◆関連するSDG's



◆連携して進める主な施策

F7 こころもからだも健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます

◆関連する総合戦略

基3・(3) 地域資源を活かした魅力あるまちづくり

◆施策イメージ画像



【長崎ベイサイドマラソン】



【ジュニアスポーツ】

施策 G4

芸術文化あふれる暮らしを創出します

文化振興課

◆2030年度にめざす姿（なにが どうなっている）

市民が

芸術文化を楽しみ、心豊かに生活している。

◆現状分析と取組みの方向性

うまくいっていること、強み、チャンス

○学校や地域に講師が出向いて行う音楽鑑賞や演劇体験などのアウトリーチ事業や、未就学児や親子向けの鑑賞事業といった自主文化事業を、コロナ禍前と同規模で展開しており、市民が芸術文化に身近に触れ、親しむ機会を生み出している。

○市民や市民文化団体による芸術文化活動の発表機会を確保するため、市民文化団体と連携・協力し、自主的な芸術文化活動の推進に取り組んでいる。

○令和7年度に長崎県で開催される「第40回国民文化祭 第25回全国障害者芸術・文化祭（ながさきピース文化祭2025）」が、芸術文化振興の追い風となる絶好の機会となる。

うまくいっていないこと、弱み、脅威

○長崎市公会堂の廃止以降、長崎ブリックホールの大ホールや練習室では高い稼働状況が続いているが、発表・練習・鑑賞など多様な芸術文化活動の場が不足していることから、新たな文化施設の早期整備が求められている。

○人口減少の影響もあり、芸術文化を創造・表現する人材のみならず、企画・制作や支援を担う人材も減少しており、学びや育成の機会が限られている。

○芸術文化活動に関する情報は、ホームページやSNS、情報誌などを通じて発信しているものの、認知度が十分でなく、情報が市民のもとに届きづらい状況にある。

取組みの方向性

①芸術文化に触れる機会の創出

- ・鑑賞型や体験型などの自主文化事業に取り組み、市民の誰もが等しく身近に芸術文化に触れ、親しむことができる機会を創出します。
- ・市民や文化団体が発表・参加できる場を充実させ、誰もが芸術文化に親しむことのできる環境づくりを進めます。
- ・「ながさきピース文化祭2025」を契機に、市民の文化への関心や参加の意欲を高め、芸術文化活動の発展と促進に繋げます。

②市民の自主的な芸術文化活動の活性化

- ・文化施設の適切な管理運営や効率的な活用を検討するとともに、新たな文化施設の整備に向けた取り組みを行い、市民や芸術文化団体の活動を支えます。
- ・芸術文化活動に携わる人材の育成や交流を促進し、芸術文化活動の広がりを支援します。
- ・魅力的な情報発信に努め、市民が自ら関心を持ち積極的に文化活動に参加できる環境を醸成します。

◆成果指標

指 標 名	基 準 値	目 標 値
芸術文化を鑑賞する市民の割合	48.1%	55.0%
芸術文化活動を行う市民の割合	19.3%	22.0%

◆関連するSDGs



◆連携して進める主な施策

B2 核兵器廃絶の実現に向け行動するとともに、平和の文化を醸成します

F4 こどもが夢や希望を持って健やかに成長できるまちづくりを進めます

◆関連する総合戦略

基3・(3) 地域資源を活かした魅力あるまちづくり

◆施策イメージ画像



【アウトリーチコンサート】



【Nagasakiまちなか文化祭】